

スーパーマーケット販売統計調査資料

2025 年 10 月実績 速報版

9 月実績 確報版

(2025 年 11 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：前月販売実績を速報値として公表 確報版：速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2025年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2025年10月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	108,490,264	100.0%	103.5%	102.5%
食品合計	100,310,405	92.5%	103.7%	102.7%
生鮮3部門合計	36,755,576	33.9%	101.9%	101.0%
青果	15,349,036	14.1%	101.2%	100.4%
水産	8,739,558	8.1%	101.1%	100.1%
畜産	12,666,982	11.7%	103.4%	102.4%
惣菜	12,304,381	11.3%	104.2%	102.9%
日配	22,422,205	20.7%	103.9%	102.2%
一般食品	28,828,242	26.6%	105.8%	105.3%
非食品	5,720,776	5.3%	100.0%	99.7%
その他	2,459,119	2.3%	101.7%	100.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	14,339,326	43	103.1%	101.8%
関東地方	40,649,879	73	104.3%	103.3%
中部地方	13,308,671	53	103.6%	102.4%
近畿地方	23,834,808	44	102.2%	101.3%
中国・四国地方	11,010,658	34	103.3%	102.0%
九州・沖縄地方	5,346,922	23	103.2%	103.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	529,626	46	99.9%	99.9%
4～10店舗	4,675,682	84	102.6%	102.2%
11～25店舗	8,842,633	49	103.7%	103.4%
26～50店舗	18,872,589	45	102.7%	102.3%
51店舗以上	75,569,733	46	103.7%	102.5%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	106,648,037
総店舗数（店舗）	8,412	店舗平均月商（万円）	12,897
総売場面積（㎡）	14,123,300	売場1㎡あたり売上高（万円）	7.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2025年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2025年9月実績 確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	106,810,024	100.0%	103.6%	102.4%
食品合計	98,854,827	92.6%	103.9%	102.7%
生鮮 3 部門合計	36,312,514	34.0%	102.5%	101.2%
青果	15,543,417	14.6%	101.8%	100.7%
水産	8,797,210	8.2%	103.4%	102.0%
畜産	11,971,887	11.2%	102.8%	101.3%
惣菜	12,254,574	11.5%	104.8%	103.5%
日配	22,119,022	20.7%	103.9%	102.6%
一般食品	28,168,717	26.4%	105.3%	104.4%
非食品	5,710,095	5.3%	99.2%	98.8%
その他	2,245,149	2.1%	100.3%	99.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	14,021,384	43	101.9%	100.2%
関東地方	39,761,893	73	103.9%	102.8%
中部地方	12,996,048	53	102.8%	101.9%
近畿地方	23,861,012	44	104.7%	103.3%
中国・四国地方	10,863,474	34	102.9%	101.5%
九州・沖縄地方	5,306,214	23	104.1%	104.6%

保有店舗数別集計

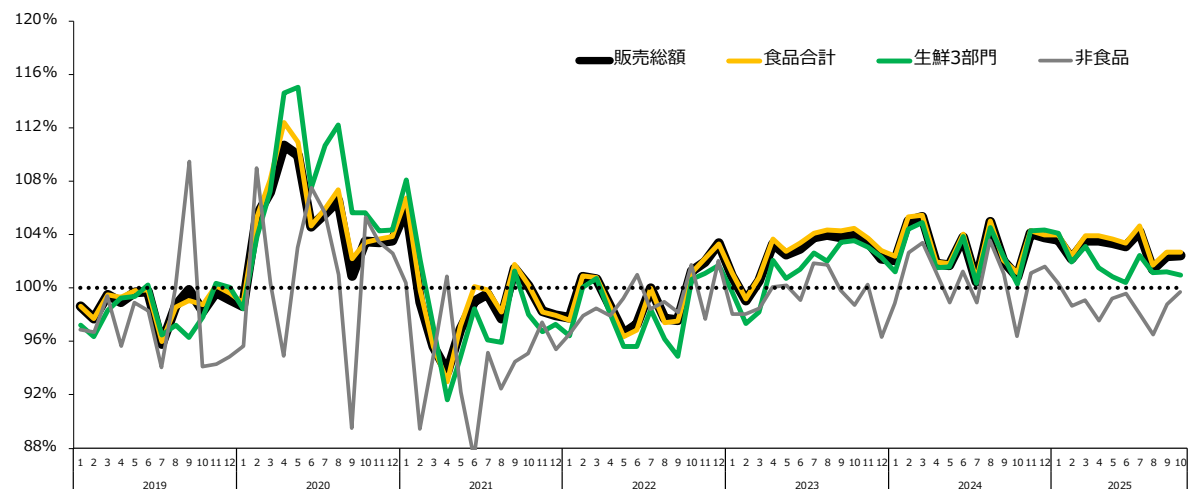
保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	522,288	46	97.2%	98.8%
4～10店舗	4,518,490	84	100.5%	100.8%
11～25店舗	8,626,799	49	103.0%	102.0%
26～50店舗	18,621,398	45	103.1%	102.2%
51店舗以上	74,521,048	46	103.9%	102.6%
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）		104,677,619
総店舗数（店舗）	8,401	店舗平均月商（万円）		12,714
総売場面積（㎡）	13,885,639	売場 1 ㎡あたり売上高（万円）		7.7

※売上高は税抜金額

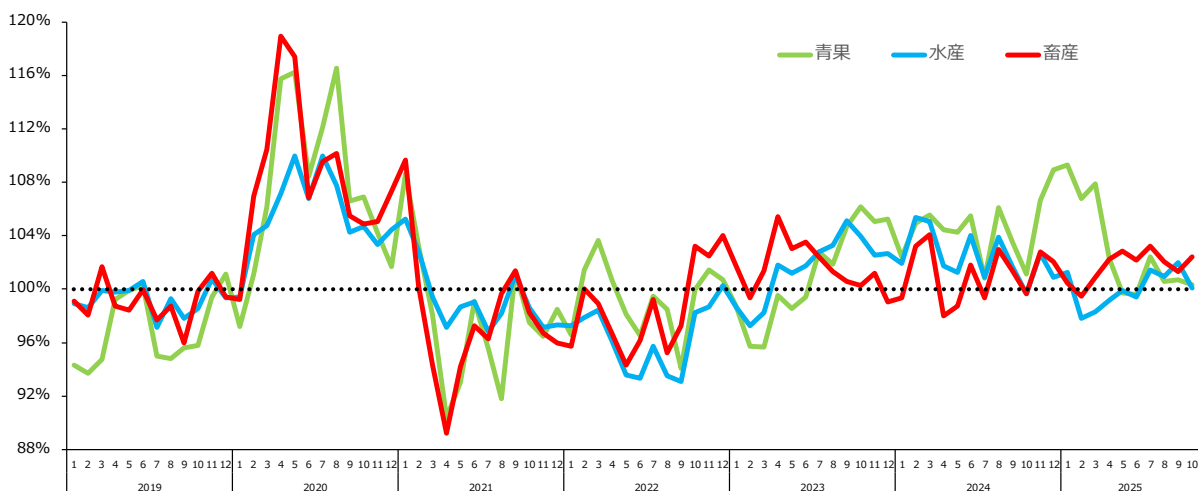
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

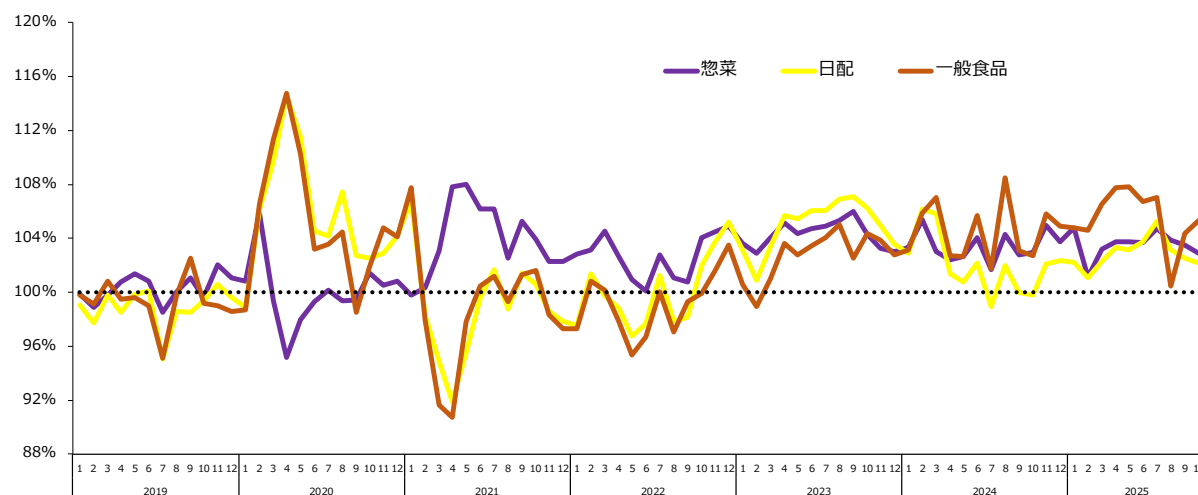
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2025年10月実績は速報版

2025年10月 エリア別気候状況

10月の気温：気温は、西日本でかなり高かった

上旬：全国的にかなり高かった。

中旬：東日本、西日本ではかなり高かった。

下旬：北日本、東日本ではかなり低かった。

2024年10月との比較：上旬は西日本で高く、中旬は北日本で低く、西日本で高く、下旬は全国的にかなり低くなった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2025年10月（今年）			2024年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	2.3	-0.2	-2.2	1.6	1.7	2.0	0.7	-1.9	-4.2
太平洋側	2.1	-0.1	-1.9	1.9	1.9	2.4	0.2	-2.0	-4.3
東日本 日本海側	2.4	2.8	-1.2	1.1	2.8	2.5	1.3	0.0	-3.7
太平洋側	2.1	2.3	-1.0	2.4	2.9	2.9	-0.3	-0.6	-3.9
西日本 日本海側	3.2	4.7	0.1	1.2	3.3	3.2	2.0	1.4	-3.1
太平洋側	2.9	4.6	-0.1	1.6	3.0	3.2	1.3	1.6	-3.3

平年差

+2℃以上
+1℃以上

-2℃以上
-1℃以上

前年差

+2℃以上
+1℃以上

-2℃以上
-1℃以上

10月の日照時間：東日本太平洋側でかなり少なかった

上旬：北日本日本海側ではかなり多かった。北日本太平洋側、西日本では多かった。東日本日本海側では少なかった。

中旬：北日本太平洋側、東日本日本海側ではかなり少なかった。北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本では少なかった。

下旬：北日本日本海側ではかなり少なかった。東日本太平洋側、西日本では少なかった。

2024年10月との比較：上旬は北・西日本で多く、中旬は北・東日本で少なく、下旬は西日本でやや多くなった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差		
	2025年10月（今年）			2024年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	135	75	69	89	130	119	46	-55	-50
太平洋側	112	63	93	70	117	113	42	-54	-20
東日本 日本海側	92	57	99	75	118	89	17	-61	10
太平洋側	87	52	68	79	122	57	8	-70	11
西日本 日本海側	112	83	86	73	94	58	39	-11	28
太平洋側	122	86	82	90	102	46	32	-16	36

平年差

平年比150%以上
平年比125%～149%

平年比50%以下
平年比51%～75%

前年差

+50%以上
+25～49%

-50%以下
-25～-49%

10月の降水量：降水量は、東日本日本海側で多かった

上旬：西日本日本海側では多かった。北日本、東日本太平洋側、西日本太平洋側ではかなり少なかった。

中旬：北日本、東日本日本海側、西日本日本海側では多かった。

下旬：北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側では多かった。

2024年10月との比較：上旬は全国的にかなり少なく、中旬は東日本でかなり多く、下旬は西日本日本海でかなり少なくなった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差		
	2025年10月（今年）			2024年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	44	123	121	104	121	95	-60	2	26
太平洋側	34	110	109	95	90	103	-61	20	6
東日本 日本海側	83	207	117	213	67	108	-130	140	9
太平洋側	27	85	125	140	31	123	-113	54	2
西日本 日本海側	137	126	60	196	124	144	-59	2	-84
太平洋側	42	72	166	167	79	157	-125	-7	9

平年差

平年比150%以上
平年比125%～149%

平年比50%以下
平年比51%～75%

前年差

+50%以上
+25～49%

-50%以下
-25～-49%

気象庁ホームページ「2025年10月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2025 年 11 月調査結果（10 月実績）
（2025 年 11 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11 月調査（10 月実績）結果概況

現状判断、見通し判断とも前月から小幅に上向く

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は、前月から+0.8 の 46.4、見通し判断が前月から+0.6 の 44.4となり、共に前月から小幅に上向いた。

経営動向調査では、前月から大きな傾向の変化はなく、売上高 DI が小幅にプラス圏を維持、収益 DI は小幅にマイナス圏となった。引き続き客単価 DI が高水準を維持した一方で、来客数 DI はマイナス圏での推移となっている。

カテゴリー動向調査では、米が高値で推移し売上高としては好調となっている一般食品カテゴリーDIが、二桁プラス水準まで上昇した。惣菜 DI は好調を維持、豚肉相場に落ち着きがみられた畜産 DI もプラス圏を回復した。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査には大きな変化は見られず、全般的に前月水準での推移となっている。（長期傾向は P11 参照）

10月後半からようやく気温が下がりはじめ、秋冬商材に動きがみられはじめた。一方で食品全般の値上げ長期化による、節約志向の高まりや買上点数の減少を指摘するコメントが目立つ。このような状況のなか、政府は物価高対策、家計支援策として、コロナ対策以降最大の 20 兆円を超える規模で実施を調整していると報道されている。ガソリン税暫定税率の廃止を含め、これらの経済対策が消費者心理をどれだけ下支えできるか、スーパーマーケットへの効果やコスト・業務負担がどうなるか、など今後の動向を注視したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：46.4 (+0.8)
前月：45.6

消費者購買意欲DI
当月：44.1 (+0.1)
前月：44.0

周辺地域 競合状況DI
当月：44.1 (-1.2)
前月：45.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.9 (+0.5)
前月：46.4

見通し判断

景気判断DI
当月：44.4 (+0.6)
前月：43.8

消費者購買意欲DI
当月：43.8 (-0.2)
前月：44.0

周辺地域 競合状況DI
当月：42.3 (-1.4)
前月：43.7

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.0 (+0.1)
前月：45.9

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：5.8 (+2.8)
前月：3.0

客単価DI
当月：13.8 (+1.2)
前月：12.6

来客数DI
当月：-7.1 (+2.5)
前月：-9.6

収益DI
当月：-0.6 (+2.1)
前月：-2.7

販売価格DI
当月：21.5 (-0.8)
前月：22.3

生鮮品仕入原価DI
当月：15.8 (-2.5)
前月：18.3

食品仕入原価DI
当月：20.8 (-2.4)
前月：23.2

カテゴリー動向

青果DI
当月：-3.0 (-2.0)
前月：-1.0

水産DI
当月：-3.0 (-6.5)
前月：3.5

畜産DI
当月：2.4 (+5.1)
前月：-2.7

惣菜DI
当月：8.9 (+1.6)
前月：7.3

日配DI
当月：1.2 (+2.4)
前月：-1.2

一般食品DI
当月：13.3 (+9.0)
前月：4.3

非食品DI
当月：-7.5 (+5.2)
前月：-12.7

※DI 値は前年同月との比較／ () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014 年 1 月～)

1. 売上高 DI

前月から小幅に上昇、プラス圏を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	5.7	22.8	33.5	29.7	8.2	3.0
売上高 (当月)	1.5	17.7	41.5	34.6	4.6	5.8



2. 収益 DI

前月から小幅に上昇もマイナス圏で推移

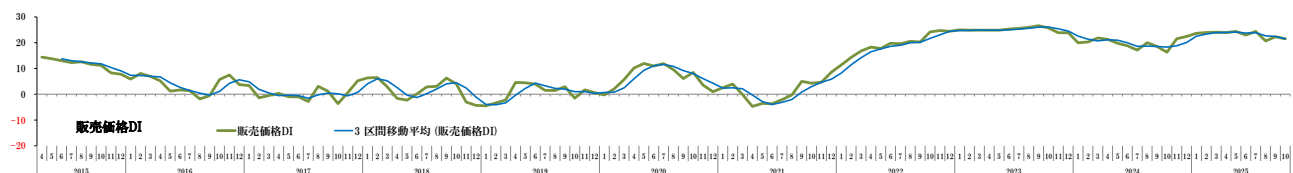
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	7.7	26.3	41.7	17.9	6.4	-2.7
収益 (当月)	6.2	24.0	38.0	29.5	2.3	-0.6



3. 販売価格 DI

前月から小幅に下落、二桁プラス水準で推移

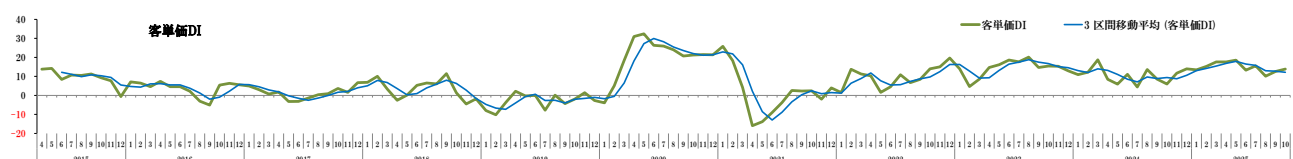
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	3.8	15.3	68.8	12.1	22.3
販売価格 (当月)	0.0	2.3	16.9	73.1	7.7	21.5



4. 客単価 DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準を維持

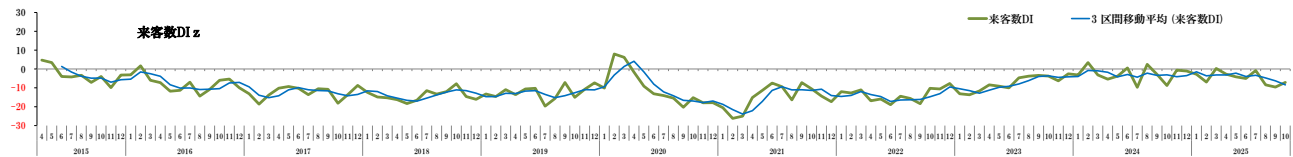
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	9.6	32.5	53.5	3.8	12.6
客単価 (当月)	0.8	3.8	37.7	54.6	3.1	13.8



5. 来客数 DI

前月から小幅に上昇も、マイナス圏が続く

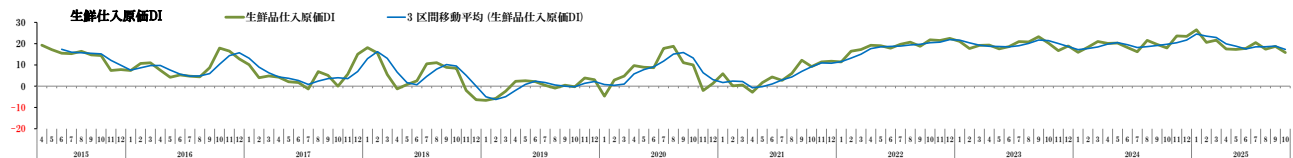
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	5.8	48.7	26.3	16.7	2.6	-9.6
来客数 (当月)	5.4	35.4	42.3	16.2	0.8	-7.1



6. 生鮮仕入原価 DI

引き続き二桁プラス水準で推移

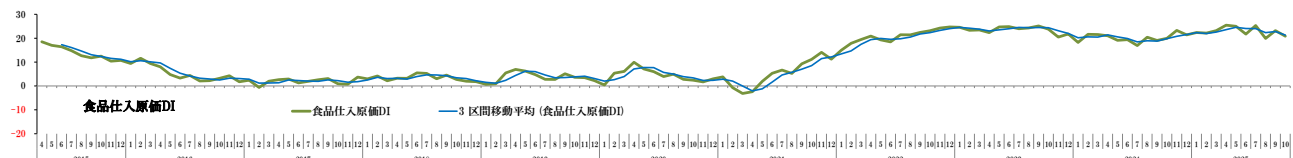
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	5.9	23.0	63.2	7.9	18.3
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	9.4	26.6	55.5	8.6	15.8



7. 食品仕入原価 DI

前月から下落も、54 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.7	2.6	17.2	62.3	17.2	23.2
食品仕入原価 (当月)	0.8	3.2	20.6	62.7	12.7	20.8

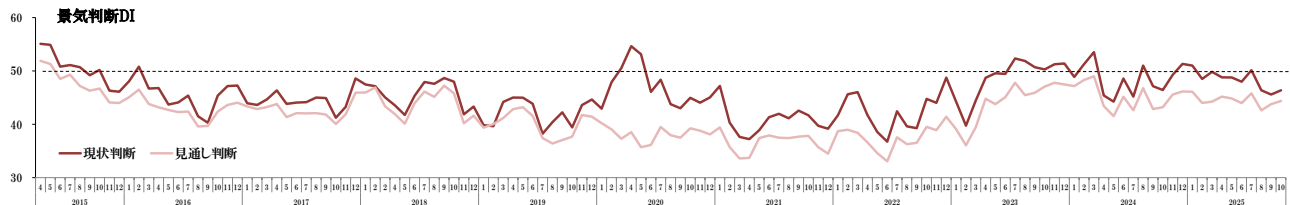


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断は共に小幅に改善

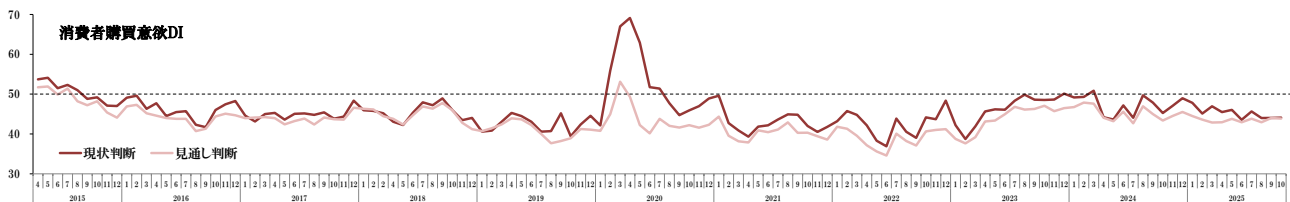
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.3	27.7	58.5	12.6	0.0	45.6
【現状】景気判断（当月）	1.5	23.7	63.4	10.7	0.8	46.4
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.3	31.8	57.3	9.6	0.0	43.8
【見通し】景気判断（当月）	2.3	25.6	64.3	7.8	0.0	44.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準

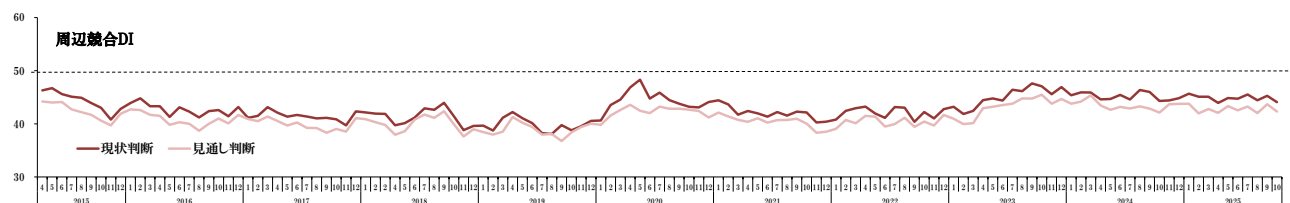
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.3	29.6	61.6	6.9	0.6	44.0
【現状】購買意欲（当月）	1.5	27.5	64.1	6.9	0.0	44.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.6	31.0	60.8	7.0	0.6	44.0
【見通し】購買意欲（当月）	0.8	30.0	62.3	6.9	0.0	43.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断が悪化、見通し判断も小幅に悪化

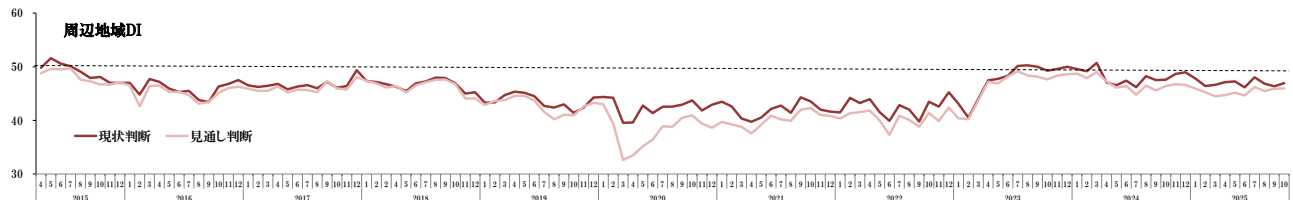
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	0.0	20.8	77.4	1.9	0.0	45.3
【現状】競合状況（当月）	3.1	17.6	79.4	0.0	0.0	44.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	1.9	22.8	74.1	1.3	0.0	43.7
【見通し】競合状況（当月）	5.4	20.8	73.1	0.8	0.0	42.3



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状・見通し判断共に前月水準で推移

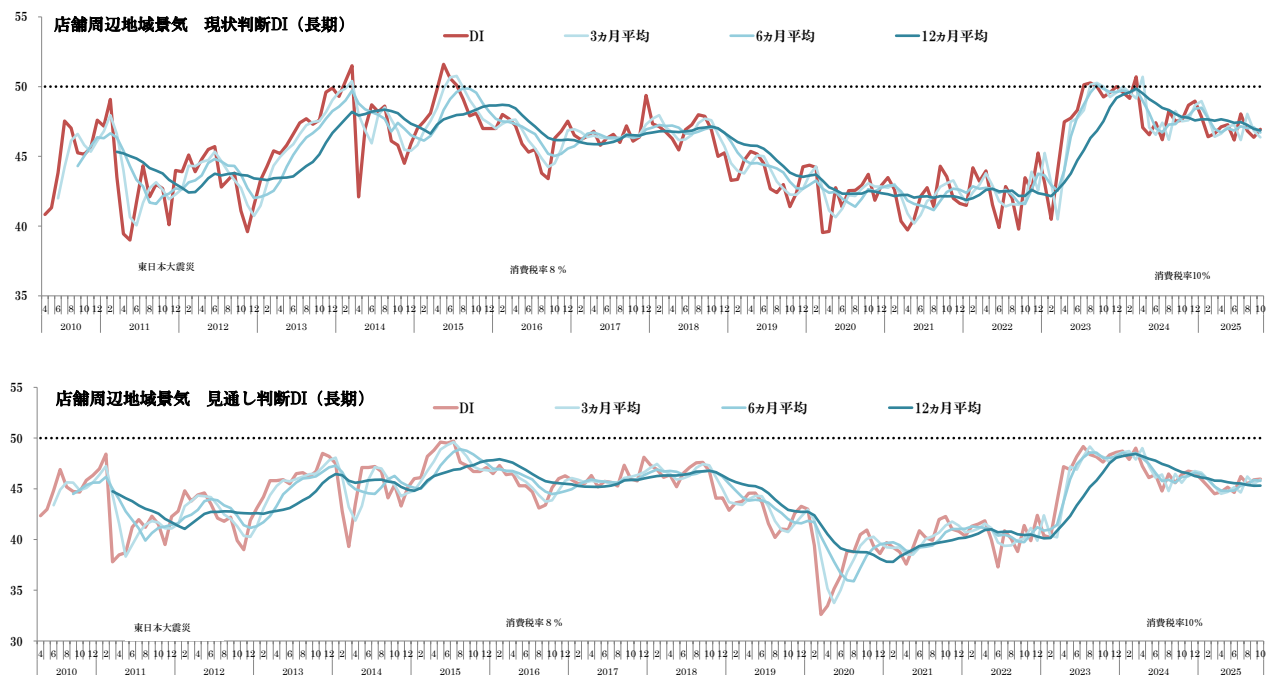
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	17.1	80.4	2.5	0.0	46.4
【現状】地域景気 (当月)	0.8	14.5	80.9	3.8	0.0	46.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	20.3	75.9	3.8	0.0	45.9
【見通し】地域景気 (当月)	0.8	18.5	76.9	3.8	0.0	46.0



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010 年 4 月～)

周辺地域景気判断 DI は 2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷が続いたが、12 年 11 月から 16 ヶ月にわたる改善が続き、14 年 3 月は現状判断 DI が 51.5 を記録。14 年 4 月の消費税率 8% 引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、15 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後 15 ヶ月間にわたり悪化傾向は続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。

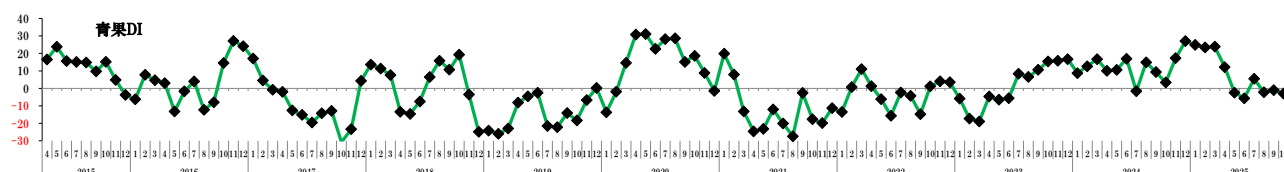
以後方向感の乏しい推移が続いたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。21 年は、感染状況により上下する動きとなった。22 年は、感染が再拡大した 7 月以降に大幅な改善をみせた。23 年も改善が続き、7 月には判断の分かれ目である 50 を突破、その後も高水準を維持した。24 年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25 年に入りダウントレンドが続いているが、夏ころにかけてやや持ち直した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-3.0（やや不調）

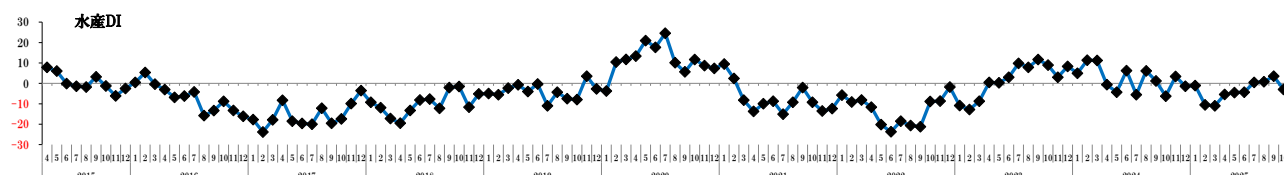
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	8.6	28.5	27.8	28.5	6.6	-1.0
青果（当月）	3.9	33.9	37.0	20.5	4.7	-3.0



青果相場は葉物類を中心に落ち着きがみられ、一品単価が下落傾向、販売量が伸び悩み、やや不調となった。下旬からは気温が低下し、白菜やキノコ類など鍋物関連の動きがよかった。じゃがいも、たまねぎなど土物類は相場高で単価が上昇、好調となった地域が多い。一方で高騰したトマトをはじめサラダ関連野菜は伸び悩んだ。果物類は入荷量の少ないリンゴは不振も、みかん、柿など他の国産果物は好調に推移した店舗が多い。価格の安定している輸入果物ではバナナやキウイフルーツ、カットフルーツなどが引き続き好調に推移した。

2. 水産 DI：-3.0（やや不調）

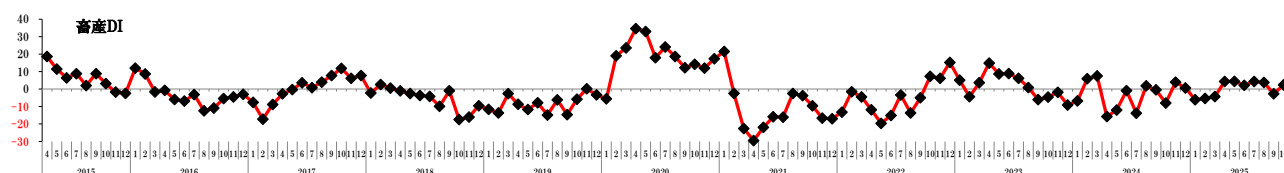
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.0	19.3	33.3	29.3	10.0	3.5
水産（当月）	4.7	35.4	31.5	23.6	4.7	-3.0



引き続き生サンマや生イカが好調で、前年より売上を大きく伸ばしたものの、マグロやカツオなどの刺身類の動きが悪く、全体としては、やや不調となった。不漁により高値で推移したシラスやカツオ、秋鮭などは苦戦した店舗が多かった。中旬まで気温が高く推移したことで、鍋商材は動きが鈍かった。牡蠣やあさりなどの加熱用貝類を好調とする店舗が多いが、ホタテは価格が高騰しており不調となった。

3. 畜産 DI：2.4（やや好調）

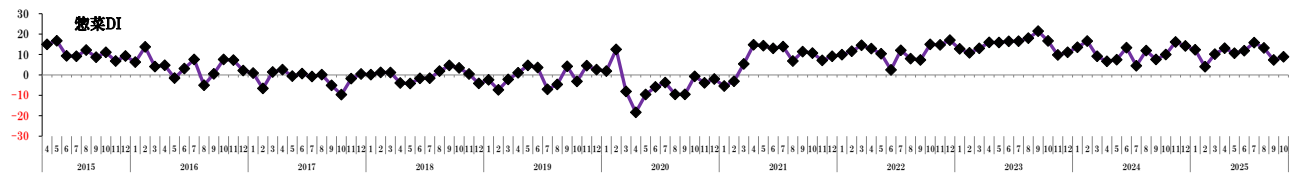
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	8.0	30.0	32.0	24.7	5.3	-2.7
畜産（当月）	1.6	27.6	34.6	32.3	3.9	2.4



牛肉の低調と、豚肉・鶏肉など値ごろ商品への需要シフト傾向は継続しているが、国産豚肉の相場が安定してきて、スライスや切り落としなどが好調に推移し、気温低下により鍋需要も高まり、全体を牽引した。牛肉は高止まり傾向が続く、輸入牛は不振も、国産にはやや回復傾向もみられた。鶏肉は価格高騰が続くなかでも堅調に推移した。加工肉は不調とする店舗が多かった。

4. 惣菜DI：8.9（やや好調）

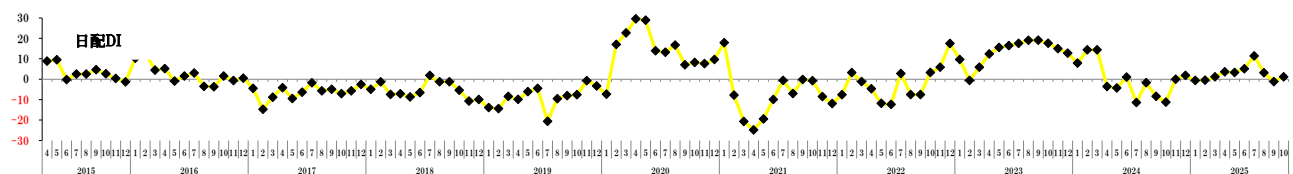
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.3	20.5	31.1	33.8	11.3	7.3
惣菜（当月）	1.6	15.0	34.6	44.1	4.7	8.9



気温の低下とともに揚げ物・てんぷら類、冷惣菜はやや鈍くなったものの、米飯類、麺類は引き続き堅調に推移しており、カテゴリー全体では好調に推移した。牡蠣やサンマなど、秋らしい商材を使用した惣菜が好調に推移。焼そば、たこ焼など軽食関連も好調とのコメントが多い。一方で寿司類は動きが鈍かった。運動会や行楽需要により、焼鳥や餃子などのおつまみ関連も順調に推移した店舗が多い。

5. 日配DI：1.2（やや好調）

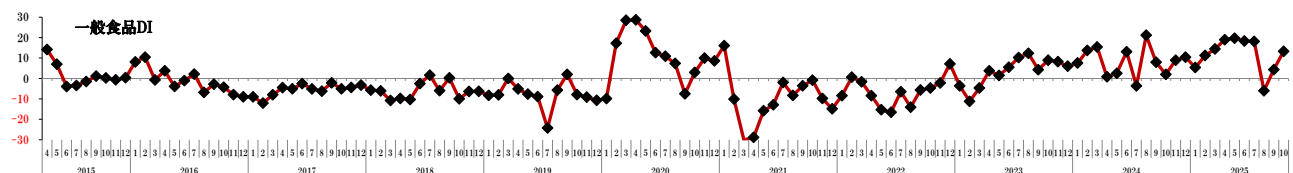
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.0	27.3	38.7	21.3	6.7	-1.2
日配（当月）	4.7	22.0	40.2	29.9	3.1	1.2



前年より気温が低く推移した地域を中心に、練り物やおでん関連商材や麺類などホット商材の動きが良くなった。鶏卵は価格高騰が続き売上としては堅調。和日配はコメ品薄解消も高止まりしているため好不調が分かれた。洋日配ではヨーグルト類は好調だが、価格改定のあった乳製品の販促ができず、乳酸飲料の反動減で伸び悩んだ店舗が多い。アイスは前年より不調となった地域が多かったが、冷凍食品は引き続き堅調に推移した。

6. 一般食品：13.3（好調）

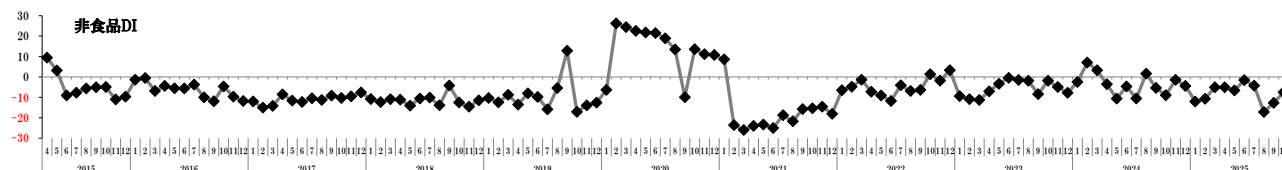
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.7	19.3	28.7	32.7	10.7	4.3
一般食品（当月）	0.0	13.5	32.5	41.3	12.7	13.3



米は、新米の入荷で品薄が解消、価格は高止まりしており、売上高としては好調が続いている。節約志向を受けたコメ代替品としてレンジ米飯、パスタ、インスタント麺類なども好調に推移した店舗が多い。値上げと気温低下でインスタントコーヒーなど嗜好品カテゴリーを好調とするコメントが多い。ハロウィン関連の菓子は堅調に推移した。気温の低下とともに鍋つゆ、カレーやシチューなどのホットメニュー関連商材の動きがよかった。酒類はメーカー出荷トラブルの影響もあったがビール新商品などがけん引し全体的に好調な推移となった。

7. 非食品 DI：-7.5（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.7	43.0	30.3	10.6	3.5	-12.7
非食品（当月）	7.9	39.7	34.1	11.1	7.1	-7.5



ドラッグストアなどとの競争によって、厳しい状況が続いている。気温の低下で冬物衣料、入浴剤、カイロなどの需要がみられた。インフルエンザの流行により、マスクなど衛生用品も順調に推移した。紙類は高値による販売数量減で不調となった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2025 年 11 月調査（10 月実績）キーワード TOP3

1. 米高値継続で好調
2. 月後半から気温低下、ホット商材好調
3. 値上げによる買上点数の減少

（参考）2024 年 11 月調査（10 月実績）キーワード TOP3

1. 気温が高く、秋冬商材不振
2. 新米の流通、価格高騰、点数減
3. 節約志向

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10 月実績速報版 131 社
 9 月実績確報版 159 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp